

私の山口大学

山口の地、そして山口大学



小嶋 直哉
副学長 工学部教授

去る5月12日、長州ファイブを称える記念碑の除幕式と講演会がありました。(P19 関連記事あり)その日一日、彼らのことを考えることを通して強く感じたことは、「志を持って学び行動することが、いかに大きな力に成り得るか」ということでした。

長州ファイブのこと

明治維新前夜の幕末期、長州藩の支援の下にイギリスに密航した、伊藤博文(初代内閣総理大臣)、山尾庸三(工部大学校：現東京大学工学部の設立、造船工学の父)、遠藤謹助(造幣事業の父)、井上馨(初代外務大臣)、野村弥吉(鉄道事業の父)の五名のことを、留学先のロンドン大学では「長州ファイブ」と呼んでいたそうです。彼らの大多数は、吉田松陰による松下村塾や、山口大学の前身である山口講習堂や萩明倫館の塾生としての経歴を持っていました。

彼らが密航を実行したのは今か

ら140年前の1863年、当時の長州藩は一揆や風水害による歳入額の20数倍の負債を抱えた状態からやっと抜け出したところで、政治的には藩意を「公武合体」から「尊皇攘夷」へと転換しこれを宣言したために孤立し、薩摩・会津による長州征伐が行われた年でもあります。また、オランダ、アメリカ、フランス、イギリスの列強の思惑が渦巻く状況にあり、まさに藩の存亡をかけた時期であったと言えます。

志をもって学ぶ

幕末の鎖国体制を解こうと世界に目を向けたとき、日本人々が持ち得た情報は極めて少なく、その情報のもつ意味そのものを理解する基盤さえもなかったはずですが、しかし、そのことを最も強く感じていた人達の中に、この長州ファイブがいたことは疑いのないことだと思います。彼らは青年特有の直感性と使命感から、志を抱いて海外へ飛び出していったのでしょう。また彼らの密航の手はずを整えた人々も、彼らを受け入れたロンドン大学も、イギリス生活において好意的であった人々も、彼らの精神性のいくらかの部分も共有していたのでしょ。だからこそ彼ら長州ファイブは、周囲の人々の共感を得て偉業を成し得たのだと思います。そういう意味で、彼らを支援した人々もまた志を解するスピリットを持つ人々であったと言えます。

もちろん彼らのなした仕事が、

後世から見てすべてが正しかったなどと言うことはできないことは自明のことでしょう。しかし当時の時代性を含めて考えれば、彼ら長州ファイブの行動はスピリットに溢れ、大きな志に裏打ちされており、まさに傑出した志の人々であったと言えるのではないのでしょうか。

そして今、山口大学

現在、世界は人口、資源、宗教、環境をはじめとする複雑な問題を抱えており、そこで生きる人々の価値観も多様化を極めていると同時に、そのキャパシティが有限であることに向き合わねばならないときに来ています。このような状況を背景として、我々は何のような志をもって時代と向き合っていくべきなのでしょう。

山口大学は「発見し、はぐくみ、かたちにする知の広場」をその理念としています。そして今、明治維新、敗戦時に続く半世紀ぶりの教育大変革のときに直面しています。世界に目を広げた地域基幹大学として、教育・研究、キャンパスライフ、地域貢献など、あらゆる面においてこの理念に基づいた活動を展開していきます。

かつて、長州ファイブが維新の変革に向かって行動を起こしはじめた地から、いろいろな世界に向かって羽ばたく日のために、志を持って学び思索する人々が集う「知の広場」でありたいと考えています。

大学の講義 出前します

~もうひとつの オープンキャンパス~



堀江 穆
教授
アドミッションセンター

大学の勉強って何だろう

大学で勉強すると将来どんな点で役立つのですか。もし高校生からこの質問を受けたら、大学の教官として、あるいは事務官として、あなたはどうか答えてあげますか。

入試広報を担当する私は、この質問をよく受けます。質問してくる高校生の眼が真剣であるだけに、実は対応に窮することも多いのです。

一口に「大学の勉強」と言っても、時代の流れの中で大きく変わってきます。また、質問する高校生も、時代の流れの中で自らが育ってきた環境、背景を数多く抱えています。この場合、親と同じように、高校の先生と同じような答えを返してくれることを期待している事が多いようです。

そのケースとして、「希望する大学に入るためには入試に耐えることが出来るよう偏差値をしっかりと上げておくこと。そして、大学に入ってから将来のことをじっくりと考える。それが大学で取り組む勉強なのだよ」と。その生徒

は安心して帰って行きます。

もうひとつのケースは、「自分のやりたいことをしっかりと見定めて、自分の思う大学に入り、他の人に負けない専門性を身につけること。やる気を出せば君なら夢を手にする事が出来る」と。

いずれにしても今の高校生にとって、入試という難関をくぐり抜けなければ「大学で勉強する」という実感をもつことが出来ない。その「もどかしさ」の中で灰色の生活を送っているのです。本当に「大学で勉強する」って何なのでしょう。



県立山口中央高校

出前総合大学 イン山口中央の実施

今年の3月、山口市にある県立山口中央高校で新しい試みを行いました。題して、「出前総合大学イン山口中央」。高校生の進路決定に向けて、「大学の勉強とはどんなことをするのか」を知ってもらうための企画です。

山口地区にある四つの高校（山口中央高校、山口高校、西京高校、中村女子高校）と三つの大学（山口大学、山口県立大学、山口芸術短期大学）が共同で出前総合大学を開き、高校生585人がそれぞれ希望する講義を二つ受けることが出来るというものでした。行われたのは31講座。授業は大学並みの一コマ1時間30分です。

生徒たちの反応は、実施後のアンケート調査によりますと、否定

的な意見はほとんどなく、意欲的に取り組み、理解も深まり、興味・関心も高まったようです。しかし、進路選択の参考になったかという質問について、「はい」と積極的に回答した生徒は、1年生で27%、2年生で37%で、「進路に対する意識」と「興味・関心を持った」という回答との間に少しずれが見受けられました。

その結果、高校の先生たちはどのような教育効果を感じたのか。「講義への理解は深まったか」、「興味・関心は高まったか」の質問に対して、生徒の反応が「はい」と「まあまあ」を加えると全体で97%に達したことから、今後の教育活動に対する波及効果は大であったとしています。

また、高校の教員側にも「派遣された大学の講師とのつながりが出来たこと」、「近隣の高校から訪れた生徒と一緒に講義・ディスカッション・実習が出来たことにより、学校の枠を超えた新たな教育の場が出来た」などと好評でした。その反面、多様化する生徒たちの受講希望を叶える（講座数の確保）ことの難しさ、実習などの機材調達の困難さも問題点として浮かび上がってきました。

一方、大学から派遣された講師の側はどう受け止めたのでしょうか。直接、アンケート調査を行った訳ではないので少し曖昧となりますが、「生徒たちの真剣な対応に感動した」と言う声が多く寄せられました。これは生徒たちから寄せられた感想文にも表れています。「ただ1回だけの講義で、しかも高校生にアレンジした講義内容だっただけに、大学の進路と結びつけることより、幅広い教養として授業の内容を活用して欲しい」という声もあったことを付け加えておきます。

高大連携から高大接続へ

山口県教育委員会が、平成15年4月に行った高大連携の調査によりますと、何らかの形で大学の授業を導入した公立高校は、全体67校の内、平成12年度が15校、平成13年度は31校、そして平成14年度は36校でした。別表をご覧ください。

内 容	平成12年度	平成13年度	平成14年度
実施した高校数	15校	31校	36校
実施した講座数	18講座	41講座	75講座
大学・学部の紹介	3	17	30
研究分野の講義	15	24	75
大学からの派遣数	19人	83人	222人

このデータで分かることは、平成13年度から高校と大学の間で積極的な交流が始まり、出前授業が大学の紹介や学部・学科の案内のために開かれると言うより、学問に対する興味を伝えたいという大学側の積極的な姿勢が背景にあると言うことです。ちなみに、これらの講義・授業の費用負担はすべて大学持ちです。

さらに、講義の回数を分野別で見てください。派遣された大学の講師は、県内にある4年制大学8校と短期大学5校の総数です。

分 類	平成13年度	平成14年度
人 文 学 系	135講座	207講座
社 会 学 系	107	57
理 工 学 系	145	116
情 報 系	10	21
福 祉 系	3	32
そ の 他	31	22
合 計	431	455

こうした出前授業に対して、大学の先生たちは、どのような動機で臨んでいるのか。これも聞き取り調査の結果で、具体的な数字は出ませんが、「子供たちの理科離れに歯止めをかけたい（理学部教官）」、「物づくりの楽しさを教えたい（工学部教官）」、「経済・社

会の仕組みを教えたい（経済学部教官）」などなど学問領域への興味・関心を高めたいという願いがあります。ですから、自分が所属する大学への誘いなどは二の次で、高校の進路指導の先生から見ると、出前授業は入試を直前に控えた3年生よりも1、2年生対象の方が効果的と考えているようです。

さて、大学の運営面からみると、それぞれの学部で開かれるオープンキャンパスの行事には、受験生対策という大きな側面があります。もちろん高校側にも生徒たちに大学の実情を直接触れさせたいという思いがあります。

「地元の高校から地元の大学に進学して、世界にはばたく仕事をしたい」と願う高校生にとって、もうひとつのキャンパス、高校で行われる大学の授業は物足りない。もう少し突っ込んだ実験を試してみたい。出来るなら大学生と交流を深めたい。さらに、大学に通って実際の講義を受けてみたいという希望も表れるようになりました。いわゆる、「高大連携」から「高大接続」への道筋が出来上がっています。

これからの山口大学

少子化が一段と進む中で、大学の姿も大きく様変わりしています。大学を多くの人に開放して、真の姿を見てもらう。そして、一人でも多くの学生を迎え入れ、地域に貢献できる山口大学を築かなければなりません。

オープンキャンパスは、1年のある時期にだけ開催されるのではなく、時期を問わず、高校で、いや小学校、中学校でも開かれるものなのです。

その方法を知る手段として、山

口大学のホームページを有効に活用して欲しいと思います。そこには大学が皆さんにお知らせする「大学公開メニュー」がたくさん盛り込まれています。

また、窓口も新たに発足する山口大学エクステンションセンターが一手に引き受けることになっています。山口大学が培って育てた教育・研究の財産を山口大学で学びたいと思う多くの人たちと分かち合い、情報を交換して、ともに歩むことで、名実ともなったオープンキャンパスを実現したいと思っています。

1コマ目 <山口中央高校会場>	担当大学	受講生
手遊び・指遊びの世界	山口芸術短大	30
外国、外国人、外国語	山口大学人文学部	42
マスメディアと私たちの生活	山口大学経済学部	42
進化する電池・携帯から電気自動車まで	山口大学工学部	38
医学部医学科への志望者に望まれるもの	山口大学医学部	27
大学の数学を学ぶ者に立ちほだかる二つの壁	山口大学理学部	25
動物の行動とコミュニケーション	山口大学理学部	42
山口県の活断層と地震	山口大学理学部	15
心理学入門 心理学への期待と誤解	山口大学教育学部	103
遺伝子組み換えは21世紀の食料・環境問題のキーテクノロジー	山口大学農学部	39
山口学を学ぼう	山口大学AC	28
高校生のための教育学入門	山口大学教C	41
21世紀人類の食糧は大丈夫か?あな達の運命への提言	山口県立大学	39
デザインと生活	山口県立大学	41
2コマ目 <山口中央高校会場>		
ピアノ公開レッスン	山口芸術短期大学	29
村上春樹と最初の夫の死ぬ物語	山口大学人文学部	40
日本語をみつめて	山口大学人文学部	42
刑事ドラマを楽しむために - 刑事法の基礎 -	山口大学経済学部	84
遺伝子DNAと酵母菌	山口大学工学部	41
どうなるゴミ問題!いま私たちがなすべきこと	山口大学工学部	27
最近のHIV感染症の動向	山口大学医学部	42
マンモスの復活に向けて	山口大学農学部	42
地域の歴史を考える	山口大学教育学部	28
魚類における外来種問題	山口県立大学	26
脂肪がつきにくい油ってどんな油? - 油の不思議 -	山口県立大学	43
米国の文化について	山口県立大学	42
母性を科学する	山口県立大学	26
地域福祉とソーシャルワーカーの役割	山口県立大学	33
1コマ目 <山口芸術短期大学会場>		
電子オルガン公開レッスン	山口芸術短期大学	3
コンピュータ・グラフィックス入門	山口芸術短期大学	24
陶芸制作実技講座	山口芸術短期大学	17

活気溢れる 山口大学

井上 史子
大学院教育学研究科
学校教育専攻
学校教育専修2年

先月31日付けのある新聞に、国土交通省中国地方整備局による、地域の特色や魅力を人の実感で評価する独自の「まちの魅力度評価指標」に基づく調査結果が掲載されていました。それによれば、対象となった中国地方の25都市の中で「住む人からみた評価」は山口市が1位であったそうです。特に高い評価を受けていた項目は「きれい」「安全」「憩い」の3項目であり、山口に住んで12年になる私が日頃感じていることと同じでした。納得の1位であるといえます。

しかし、「活気」の項目であまり高い評価を受けていないことには少々驚かされました。というのは、ほぼ一日中山口大学構内にいる私には、学生達の賑やかな笑い声や構内のそこかしこで見られる様々なサークルによるパフォーマンス、暗くなっても消えることのない研究室の灯りなどはすでに見慣れた風景の一部であり、若さと希望に満ちた学生達の活気が構内に溢れているからです。彼らのあの熱気は学外に住む人達には届いていないのでしょうか。だとしたら是非一度、山口大学に来てみてほしい。そこには真摯に学問に打ち込む学生や、その熱意に応えようと夜遅くまでゼミを開く先生方、さらなる向上を求めて研修会に訪れる社会人や山口の地で異国の教育を受けることを選択した多くの留学生達の姿を見ることがで

きるからです。

私自身、山口大学の卒業生ではありませんが、今ではこの学び舎で学べることの幸運に感謝している人々のうちの一人です。そして、いつか彼らの熱気が山口の街にも浸透し、真の意味での「まちの魅力度評価第1位」となることを確信している一人でもあります。物や人で溢れかえっていても、そこに居るだけで疲れてしまう街もあります。それを本当に「活気」と呼んでいいものだろうか。余計なことに気を遣わず自分のやりたいことに専念できてこそ、人は自分の力をフルに発揮できるものです。山口大学にはそれが実現できる、環境と人がそろっています。

教師を目指して

木原 剛柔
教育学部
学校教育教員養成課程
国語専修4年

私は、教育学部の4年生で、小学校の「先生」になるべく勉強しています。大学では「自分」ががんばって勉強しないと単位はとれません。しかも、高校のように授業の内容をそのまま覚えればよいのではなく、講義の内容を受け止めた上で自分の考えを深化発展させる必要があります。

教育学部では「先生」になるための講義が行われています。内容は様々ですが、小学校免許を取得するための授業では主に各教科の内容を勉強したり、また、それをどのように子供に伝えればよいかを学習します。中には実際に歌ったり焼き物を焼いたり、田植えをしたりする講義もあります。先生

方も非常に個性的で面白く、講義中に吹き出してしまうこともしばしばです。しかし、ここで重要なのは講義を聞き、思ったことや考えたことを友達同士、または教授と話し合っって他人の意見を取り込みつつ自分の考え方を発展させることです。そして自分の中で発展させた考えを試す場が「教育実習」です。一人の教師として責任を持って授業に臨まなければなりませんし失敗も多々あります。しかし、一生懸命やればやるほど子供たちはそれに応えてくれます。教育実習は自分を試す場として非常に良い経験になると思います。

とはいえ大学は勉強ばかりしているわけではありません。教育学部では運動会が実施されますし、私が所属する国語研究室ではバレー大会が催されたりします。また学生同士で集まってソフトボールやサッカーもします。七夕祭や大学祭にも出店しています。このような行事にみんなで参加し、大いに盛り上がる。このような経験や様々な人達との出会いはすべて「財産」です。この財産を少しずつ増やしながら目標に向かって楽しみながら学習する場所が大学なのだと思います。

自分で見つける

片山 雄一
大学院教育学研究科
教科教育専攻
美術教育専修1年

私は、今年山口大学教育学研究科に、大学院生として入学しました。学部生時代も山大学生でしたので、山大とは長いつき合いになってしまいました。

山口大学ってどういう所?と尋ねられたら、一言で言えば「良くも悪くも田舎の大学」。山口市はお世辞にも都会とは言えないと思いますし、実際に大学の周りは何もありません。

いわゆる「遊ぶ所」なんてものは無きに等しく、かわりに自然があります。蛍だっって見ることができる場所もあります。風光明媚と言えば聞こえがいいでしょうが。しかしまさにこの点こそが、山口大学の美点であると思っております。何もないということは雑音もないということでしょう。これほど、勉強するのに適した環境があるのでしょうか。そしてこれもまた素晴らしい点であると思うのですが、外に「遊ぶ所」がないかわりに、内には学ぶための物が非常によく整っています。山大の環境は、学生の「学びたい」という欲求に必ず応えてくれるはずですよ。

図書館やパソコン機器をそろえたメディア棟、全国的にも広い敷地などの設備面はもちろんのこと、学生を全力でサポートして下さる先生方もいらっしゃいます。入学から卒業まで、私も非常に多くのご助力を頂き、面倒をみてもらいました。

大学生活は、人生の中でも一番自由な時間だと思います。自由であるからこそ、自分自身をしっかり持たなくてはならないと思います。何でもできる空間があり、時間がある。そして導いてくれる人がいる。そうした点で、山大はまさに学生が本当に学生らしく学ぶことのできる場所と言えるでしょう。あとは、自分が何をしたいのか何をすべきなのか、学生自身が見つけ出すだけです。

楽しく学んでいます

亀田 恭介
教育学部
学校教育教員養成課程
国際理解コース1年

私は今年山口大学に入学した1年生です。山口大学のよいところをお話します。

まず、山口大学は四方八方を大自然で囲まれた緑豊かな盆地にあります。近くには川もあり、授業で小魚を取りに行ったり、6月になると蛍が見られたりします。また、皆さんが思っているよりも道路が整備されていて、生活していくために差し支えない程度の利便性は確保されています。治安もよく、女性でも夜道を一人で歩けます。

また、伝統のある大学として、歴史を感じさせる校舎、選りすぐられた教官たちなど、勉強に関してもよい環境が整っています。

私は教育学部の国際理解教育コースに所属しています。日々、語学力のみでなく、文化理解のための勉強をし、留学生との交流を図っています。男女学生の仲もよく、毎日が楽しいです。クラブやサークルも盛んで、いろいろなものがあります。きっとみなさんの入りたいサークルも見つかるでしょう。

ぜひ一度、見に来てください。



大学院とは?



佐藤 行信
大学院経済学研究科
経済学専攻1年

「大学院」というと皆さんどんなイメージを持つでしょうか? 堅苦しくて何やら難しいことをしているよく分からないところ、そういうイメージを私も学部時代持っていました。しかし大学院に入り、今では大学院とは「自分の興味ある事柄を自分自身で調べ、そしてより深く知る」、その場や機会を提供してくれるところであると思っています。

学部時代でも、もちろん大学はそれらを提供してくれましたが、大学院は自分の興味あることにさらにのめりこませてくれる環境にあると思います。それに大きく関係するのは、大学院の学生には研究室が与えられるということです。研究室といっても学生用の自習室といった感じで特別何かがあるわけではありません。しかし今まで家や、図書館であっても勉強にすぐに飽きてしまって、机に長時間座ることができなかった自分が、研究室だとなぜか集中して勉強することができています。それは大学内で研究室という自分の居場所ができたこと、そして一緒に研究室で勉強している友達や同じ大学院生が「自分もやらないと!」という気持ちにさせてくれ、雰囲気をつくってくれ、それが大きいと思います。

加えて、大学院の講義が少人数制で行われているということも大きいと思います。

講義は多くても10人程度で、先生とマンツーマンという講義もあります。そうすると発表する機会や自分で勉強する機会がとて多くなり、そのことが自分に大学院へ「学びに来ている」ことを知らず知らずのうちに自覚させてくれる事が大きいと思います。

何かを自分から「知る」ということはとても楽しいことです。それは勉強に限らないし、その楽しさを教えてくれるのが大学であると思います。でももし「知る」(=「学ぶ」)ということをより深めたいのであれば、大学院はたくさんのことを提供してくれるとても有意義な場であると思います。一度大学院がどのようなところが自分で調べてみるのも面白いのではないのでしょうか？

はれて山大生

西村 拓
経済学部1年

地元の私にとって、山大は最も身近で、かつ興味深い大学でした。小さい頃、父親と七夕祭によく行ったものでした。行くたびに、「この大学は活気にあふれているなあ」と感じました。学生が自主的に動いていたのも印象に残っています。私がそのような山大を目指したのは自然な流れだったのかもしれませんが。

とにもかくにも山大生になった私は、これから始まる新しい生活に胸をふくらませていました。

①授業では居眠りをせず積極的に参加する。

②大好きなバレーボールをする。

③友達とバンドを組む。

そして何より

④たくさんの友達をつくる。

ということを大雑把に描いていました。今のところどれも達成できていませんが、あせらずゆっくりやって行こうと考えています。

実際大学生活が始まってみると、案外普通でした。自転車で大学へ通い、授業を受け、帰宅するという平凡なサイクルです。でもそれは、山大生として決して十分ではないと思いました。換言すれば、山大の良さを無駄にしているということです。自分のやりたいことを自分で見つけ、自分から行動する。そうでなければ時間だけが過ぎて、山大に通う意味さえも見失ってしまいそうです。

「大学の4年間はあっという間だ」とよく言われますが、そんな短い大学時代で何ができるかをしっかり考えたいと思います。全て自分次第だと思います。

今を大切に生きる



村上加奈子
経済学部経営学科4年

今年4月、図書館の前で二度も新生入生に間違われました。確か去年も2回くらい間違われたような気がします、気が付いたらそんな私ももう4年生です。

つい最近の話ですが、部活の行事で現役が言った言葉に「大学生はあまり勉強に励まないほうがいい

いです。それよりも自分のやりたいことを思い切りやってやりたいことを見つけ出し、大人になってあのときやっておけばよかったと思わないようにすることが大事です。」というのがありました。確かにその通りだと思います。勉強をするなどはいりません、就職活動やその先のことを考えると絶対に必要ですし、一歩間違えれば卒業さえ危うくなります。経済学部では2年からゼミに入ります。私のいるゼミは遊び感覚で学んでいたのでもやりたい放題(!?)でした。しかしゼミでしてきたことが将来やりたいことを見つけるきっかけになったのも事実です。早い時期から専門分野を選ぶのは難しいと思いますが、逆に早くから学んで専門性を高められるという利点もあります。ちょっとでも興味のあることに進んでみればいいと思います。

大学生にはあり余るほど自由な時間があり、これまでの学校のように束縛するものもありません。だからこそ、その間に何をすることが大事なのです。私の場合、それは部活でした。先輩後輩、学外の仲間達は私を成長させ、新しい世界を見せてくれました。自由な時間を持っている今はまだその大切さが分からないかもしれませんが、節目を迎えたときや終わる頃に分かるものだと思います。友達と飲み明かしたり、夜中に遊びに出たり、突然の誘いにのったりなど社会にでてからはできないこともたくさんあります。だからサークル活動や文化活動に積極的に参加し、いろいろな人と触れ合い、いろいろな経験をして欲しいと思います。そして最後に、良かったなと思えるよう“今しかない”この時間を、つねに大切に過ごしてください。



■座談会（レール・ゼミ）

経済学部生の 大学ライフ

学生の大学ライフは所属学部によって、そして人によってずいぶん違います。ここでは一つの例として、経済学部のレール・ゼミ生12人（2年生）の大学ライフのいろんな過ごし方を紹介しましょう。

1、山口大学・経済学部 について

中本（司会）「今日は皆さんにどのような大学生活を送っているのかを聞きたいと思います。まず、経済学部を選んだ理由について教えてください。」

吉山「経済学部を選んだ理由は、経営に興味があり、それを学びたいと思ったからです。山口大学では、ベンチャービジネス論など他の大学にはない授業が学べます。」

中村「僕は公務員になりたいくて、経済学部では経済原論など、公務員になるために必要な科目を学ぶことが出来るという理由で選びました。」

中本「経済学部や共通教育で、面白いと思った授業を教えてください。」

陶山「貿易論という経済学部の授業が面白かったです。専門的な分野ですが、非常にわかりやすい説明だったので、よく理解できました。」

林「1年生の時、共通教育で受けた相対主義を哲学するという授業が面白かったです。先生が教えてくれるいろいろな相対主義の考え方を自分の考えと照らし合わせながら、学ぶことができました。」

石井「コミュニケーション英語という経済学部の授業がおもしろかったです。授業中は全て英語で、ゲームをしたりして楽しく英会話能力を身につけることができました。」

中本「山口大学ではTOEICにも力を入れているので、英語を学ぶチャンスが多いのはいいですね。」

2、部活動・サークル活動 について

中本「次は、皆さんの部活動・サークル活動について聞きたいと思

います。どのような部活・サークルだったか、そして、入った理由やどんな活動をしているかを教えてください。」

吉山「僕は旅行サークルに入っています。友達が作りたかったのと、みんなで旅行するというのはいい機会になると思ったので入りました。長期の休みには、1、2回のペースで旅行に行きます。普段はスポーツやドライブをしたりしています。」

坪井「僕はヨット部に入っています。毎週土日に山口大学の合宿所に泊まり込みで練習しています。夏休みは1か月ぐらい合宿所に泊まり込みの練習をして、8月の終わり頃に大会に臨みます。」

河野「私は山口大学の生協学生委員会に入っています。入学してすぐにあった『新人さんいらっしゃーい』という新入生歓迎企画に参加して、来年もこの企画に参加してみたいと思って入りました。」

中本「新歓フェスティバルが部活・サークルに入るきっかけになった人がいますか？」

小森田「最初は、たくさん部活・サークルがあって、どういうのがあるのかよくわからなかったのですが、新歓フェスティバルはいろんな部活・サークルを知るとともに興味を持つきっかけとなったので、入るきっかけになりました。」

3、山口での生活について

中本「ほとんどの学生が一人暮らしをしていると思いますが、一人暮らしをしていてよかったこと、困ったことなどを教えてください。」

い。」

林「一人暮らしをしていてよかったことは、自由な時間がたくさんあるので、自分のしたいことにそれを使えることです。困ったことは、病気の時に一人で苦しまなければならないことです。」

鈴木「自炊するのがめんどくさいです。最初は自炊していましたが、最近は外食することが多いので、出費がかさみます。」

中本「皆さんはどんなバイトをしていますか。」

小森田「飲食関係のバイトをしています。まかないが出るので食費が助かります。」

斉藤「飲食関係のバイトをしています。サークルがあるので夜10:00~3:00までしています。まかないが出るので食費が助かるのはいいですが、次の日に学校に行けなくなってしまうこともあるので、バイトはそういう点も含めて考えた方がいいと思います。」

中本「山口のいい所や行ってみてよかった所などを教えてください。」

林「自然がいっぱいなので、朝起きて窓を開けると川のせせらぎを聞くことができるのがいいです。姫山の方に自然観察に行ったら楽しかったです。」

河野「秋吉台はすごくきれいで、鍾乳洞で夏は涼むことができますので、とてもいい場所です。山口は癒される場所が多いと思います。」

石井「ホタル祭りでたくさんのホタルを見て感動しました。」

4、高校生に向けてのメッセージ

野津「山口大学に入ったら、自分のやりたい勉強ができるので、楽しいと思います。」

石井「大学生活は自分のやりたいこと、好きなことが出来る反面、それだけ自分に責任を持たなければならないと思います。」

小森田「大学は高校と違って、いろんな県から来た人と会うことができ、みんながいろんな考えを持っているので楽しいです。」

河野「大学に入ると、周りにいろんな刺激があるので、目まぐるしいです。山口大学はAO入試などいろいろあって、入るチャンスも多いので、ぜひチャレンジしてみてください。」

斉藤「入ったサークルを就職に結びつけている先輩もいて、自分の好きなことをやりながら就職を決められるということが選び方次第でできるというのは、山口大学のいい所だと思います。」

鈴木「自然が好きで静かな所で勉強したい人には山口大学はいいと思います。」

林「大学は高校と違って、与えられた勉強から自分でやる勉強に切り換わります。」

坪井「自分のやりたいこと、好きなことが積極的にできるので楽しいです。」

中村「大学生活では、一人暮らしをすると自炊しなければいけないので大変です。」

吉山「山口大学は生徒数が多いのですが、at homeな雰囲気なので、あまり人が多いと感じさせないところがいいと思います。」

陶山「大学に入ることによって就職する前に自分の時間を見つける機会ができると思います。」

中本「皆さん、今日はありがとうございました。」

(文責/陶山、野津、レール)



大学生活で学ぶこと

木曾 千聡
理学部
自然情報科学科
生物科学コース 4年

山口大学に来て

4年前、私は地元、静岡県から遠く離れた山口大学へ入学してきました。私は子供の頃から引越し、転校を繰り返してきたので他の土地へ行くことに抵抗はありませんでした。むしろ、今まで足を踏み入れたことのない土地で、憧れの大学生活と生まれて初めての一人暮らしをしていくことに期待するばかりでした。

山口に来てまず始めに受けた印象は、「自然に囲まれたのどかなところ」でした。実際に大学生活を始めてみると、都会にある大学とは違ってキャンパスも広く、時間に追われることもなく、本当にのんびりしていて（ネコも構内のあちこちでのんびりと生息しています）じっくりと色々なことを考えることのできる良いところでした。

大学生活

大学生活1年目は生活に慣れることに精一杯でした。一人暮らしは思い描いていたのと実際とは異なるところもあり、今までどれだけ親に甘え、支えられていたのかということに気づかされました。同時に、近くに居過ぎて忘れかけていた家族への感謝の気持ちも素直に表せるようになりました。

また、大学では高校までと比べ

ると友達と過ごす時間が長く、親元を離れた分、友達の存在はとて大きく、支えられてきたところが多々ありました。大学は一生付き合っていける友達を見つける場でもあります。

勉強に関しては、共通教育では専門科目以外の教科も選択でき、色々な分野に足を踏み入れ、自分の視野を広げることができます。「興味はあるけど自分の専門には選ばなかった分野」について学ぶことができました。

2年目以降になると大学生活にも慣れ、余裕ができるのでサークル活動や、アルバイトなどに費やす時間が増えました。サークルやアルバイトは他の学部、他の大学の人と出会うことができる良い場でもあります。自分とは違う興味や考えを持った人との交流を深めることができました。アルバイトでは大学生活を送るだけでは得ることのできない常識やマナーなども身に付き、大変勉強になりました。私はアルバイトを始めて成長できた部分が多かったので、学生の内にアルバイトをして色々経験することをお勧めします。

自然情報科学科では2年から生物、情報、物理のコースに分かれ、2、3年生でより専門的な知識を身に付けることができます。私は昔から生物に興味があり、コース選択の時には迷わず生物コースに進みました。生物コースでは1年の時よりも実験の時間が増え、机に向かって勉強するだけでなく、実際に生物の面白さを体験しました。また、色々な先生の授業を受け、お話を伺うことで生物への興味、関心を深めました。

現在、私は4年生になり、研究室に所属し、小さい頃から抱いていた夢に少しでも近づけるよう勉強しています。

4年間過ごして思うこと

自分のやりたいことに時間をかけることができるのは大学生の内だけだと思います。この贅沢な時間を有効に活用できるか、できないかは自分次第です。大学4年間というのは長く思えますが過ぎてしまうととても短いものです。ぼーっとしているとあっという間に過ぎてしまいます。これから入学して大学生活を送る高校生の方々には、自分のやりたいこと、将来のことを考えながら、今現在の時間も大切に、充実した大学生活を送って欲しいと思います。

化学を自分の目で見るために

井上 絢子
大学院理工学研究科
化学・地球科学専攻1年

山大の化学

山口大学の化学コースでは、講義とともに1、2、3年まで、分析、物理、有機化学の実験が授業の一環に含まれています。そして基礎を積んだ後、4年で自分達が選んだそれぞれの研究室に入ります。研究室に入ってからには指導教官がつき、実験テーマが与えられます。そして指導教官や院生と話し合いながら、自分で立てた実験計画に従い研究を始めます。

私の実験

私は有機物の分解について研究したかったため、二酸化チタン光触媒という物質を使い有害物質の

無害化を研究している研究室に入りました。そして、フェノールの一つの水素が塩素で置換されたo-クロロフェノールやp-クロロフェノールから、塩素を効率よく脱離させ無害化するにはどうすればいいかを二酸化チタンを使って研究しています。二酸化チタンや有機物がなぜ光を吸収するのか、なぜクロロフェノールが分解されるのか、どう分解されていくのか、光を当てた時に溶液中でどんなことが起こっているのか、などを実験により明らかにしていくのが私の研究のおもしろいところです。

今日この頃思うこと

卒論発表の時、ある先生に「どうしてこうなるのですか。」と尋ねたら、「それを考えるのがあなた達じゃないですか。」と返ってきました。今まで“より深く知っている人に教えてもらえばいい”、と考えていた自分には目からうろこでした。どんなに優れている人が周りにいても、“その人にしてもらえばいい”では自分自身はできないままだと最近実感しています。自分はどう考えるのか。それを相手に伝えるにはどうすればいいか。聴くことの大切さ、伝えることの難しさ、考えることの重要さを研究室に入って再認識しています。

化学の面白さのあるところ

木星を肉眼で見ると一つの星に見えます。しかし天体望遠鏡を覗くと実際に衛星が存在しています。化学も肉眼で見えている部分はほんのわずかです。調べたりいろんな人と話し合ったり、そこで起きている現象を自分でイメージすることができた時、本当の化学の

おもしろさが見えてくるとおもいます。

僕らの山口大学

大野 朗
理学部
数理科学科1年



理学部の校舎

上の二つの写真は、私が所属している理学部の教室の写真です。理学部は新設の校舎なので、他の学部の校舎と比べてとてもきれいです。ここで私たちは、主に専門科目を学んでいます。校舎には、教室の他にも部屋があります。例えば、教授や助教授の研究室や談話室です。研究室には、気軽に尋ねていけるようになっていますし、談話室で友達と色々話をしたりも出来ます。

部活動・サークル活動

大学では、授業の他に部活動やサークル活動に参加して大学生活をより良いものとする事が出来ます。色々な人と出会う場所なので、もちろん名前だけのお遊び部

も存在します。しかし、一つのことには打ち込むには最適の空間でしょう。掛け持ちも自由なので、色々なものに入ってみるのも良いかもしれません。

大学の授業とは

大学の講義は、専門科目、共通科目、教職科目の三種類があります。基本的に何をとっても自由です。自分が聞きたい講義を自分の好きなように受ける事が出来ます。

また、複数の教員が同じ講義を持っていることもよくあります。それによって自分にあった先生を探すことも出来るのです。

余談

山大には、いろんな所に自動販売機があるのですが、そのうちの一つに小さいペットボトルの缶タイプが売ってあるものがあります。それはなぜか、1種類以外全て110円なのに、それだけ100円なのです。何かそれを買うと得した気分になるのです。これは業者の思惑なのでしょうが？



私の山口大学



稲村 彰紀
医学部
医学科1年

山口大学医学部医学科に入学して2か月が過ぎました。たった2か月の間ですが、私は随分と変わったように思います。医学部での勉強と部活と友人関係、そして山口での生活は極めて刺激的なものです。

医学部での勉強とはいっても専門科目は2年次以降から始まるので、聞き及ぶ記憶事項の量の多さ、試験の多さに少し怯えることはあっても、医学部教育の持つインパクトはほとんど感じられません。その萌芽は既にあります。それは、病院見学や解剖実習見学などといった医学部特有の、人生観を変えるような見学プログラムが目白押ししていることです。病院の中を白衣を着て、普段は入ることができないようなところまで見学できたり、解剖実習の様子を間近でみたりと、一か月に一つは、これまでの私の人生におけるタブーを破っています。そして、部活の先輩や周囲の友人たちは、こうしたタブーを破った体験を共有できる仲間です。この点で、医学部における先輩や友人というのは、他の学部における場合と、少し意味合いが変わってくるのかもしれませんが、特殊な連帯感があるだけ家族的な雰囲気強く、各人間の

距離が近いためお互いの刺激を受けやすいようです。また、特殊な経歴を持つ人も多く、自分の人生と照らし合わせる形で色々な人の色々な人生の話を聞くのも、よい勉強になっています。

山口という維新の、恐らくは古くから少し特殊な人間模様が描かれ続けてきた土地は、そんな様々な人間（じんかん）の肌理が浮かぶのによいキャンパスなのでしょう。新しいもの好きで行動力にあふれる人たちが住む、起伏と自然が多いこの町は、私を常にアクティブにしています。この2か月で私は、随分と成長したように思います。

人間として成長できる場所



神杉 朱美
医学部
医学科6年

山口大学に在籍してから、もう6度目の夏がやってきます。慣れないスーツを着て入学したのはつい先日の様ですが、月日が経つのはとても早く、専門の系統講義も終え、現在は最終学年としてベッドサイドで医学を学んでいます。大学生活を振り返って最も強く感じることは、人間として成長させてもらったということと、何にも変え難い、一生の友人達と出会えたことです。

医学部は先輩と後輩の交流が盛んで、そのうちの一つに部活動があります。私も1年生の時に先輩に勧誘されて入部して以来、言い尽くせない程の思い出ができました。他大学の医学生との情報交換も非常に刺激的で、カリキュラムの進度や将来の希望について熱く語り合いました。また先輩への敬愛の念や後輩への思いやり、集団行動する上で必要なマナーなどは、患者さんや医療スタッフとのコミュニケーションにおいて非常に有用だと実感しております。

5年生の後期から始まった臨床実習は、今ここで実際に苦しんでいる患者さんに対し、許可された範囲内で医療行為を行いながら医学を学習するものであり、非常に貴重な体験をさせてもらっています。これまでに机上で二次元的に学んできた疾患が三次元化し、実際に治療の現場を体験することで知識を確認したり、最新の医療を見学したりと、充実した実習を行っています。

私たちの年から必修化となるスーパーローテーションは、プライマリ・ケアのできる医師が求められる社会の現状を反映したものです。将来専門へ進んでいった場合でも、総合医療が正しく自信を持って行い、一人でも多くの患者さんを救えるように、これからも臨床実習に積極的に取り組んでいきたいと思っています。



私が大学院で 行っていること



村上 雅憲
大学院医学研究科
応用医工学系博士
後期課程1年

私の所属する器官制御医科学講座（第一外科）は、診療において心臓、血管、肺、消化器、小児の各班から成り立っています。それぞれの診療班には研究テーマがあり、活発に研究が行われています。心臓班では、現在「自己骨髄を用いた心筋再生」と「移植免疫」が主に行われています。私は心臓班なので「移植免疫—移植片に対する免疫寛容の導入」をテーマにしています。

では、具体的にはどのようなことを行っているのでしょうか。現在の医療では移植を行うと拒絶を避けるために免疫抑制剤を飲み続けなければならないといけません。なぜなら、移植された臓器は患者さんにとっては異物であり、それを排除しようと人間本来の免疫機能が働き移植された臓器を攻撃するからです（拒絶におちいる）。しかし免疫抑制剤を飲み続けることは、感染に対して抵抗力が低下することの他に、発ガンの原因になるなど、副作用も多く知られています。ここで、私のテーマである、免疫寛容が関与してきます。平たくいえば免疫寛容とはある特定のもの（この場合は移植片）に対してのみ自

己と判断させることです。移植片に対する免疫寛容を導入できれば、移植片は自己と認識されることにより免疫抑制剤は必要なくなり、免疫抑制剤による副作用はなくなります。従って、感染に対する抵抗力が低下することはありません。

まだまだ研究は基礎段階で臨床での応用には解決しないとイケない問題が多数ありますが、必ずや解決し医療の発展に貢献できるよう、研究を続けていきたいと思えます。

「夢」は諦められなかった!!



大野 佳
農学部
獣医学科1年

私は今年、山口大学農学部獣医学科に入学しました。私は小学生の頃から獣医師になりたくて、ずっと憧れていました。現役時は必死で勉強しましたが、緊張のあまり結果は最悪なものとなりました。獣医師の夢を諦めて行ける大学に入学するか、夢を諦めず浪人生活を選択するか、生まれて初めて大きな壁にぶつかりましたが、私の出した答えは「行ける大学に行く。」でした。しかし、行ける大学を選んだ私は、自分に興味のあることができないことにはじめて気がつき、はじめから素直に浪

人生活を選択しておけばよかったと後悔しました。このまま入学した大学で中途半端な気持ちを持ったまま卒業することができるのか不安でもありました。1年間通ったものの、結局毎日毎日そのような気持ちで大学生活を過ごすことも限界に達し、退学することにしました。しかし、退学して再受験しても必ず合格できる保証もありません。この選択も非常に大きな壁となりましたが両親に了解を得て、1年間だけという約束で浪人生活をすることにしました。「もう試験での失敗は許されない、1年間で結果を出さなければならぬ。」というプレッシャーと闘い、約束通り、獣医学科に合格することができました。今は「やっと自分の夢に一步近づいた。」という気持ちでいっぱい、とても嬉しく思っています。

大学生活スタート!!

入学して2か月がたとうとしています。受験勉強から開放され遊びやアルバイトに明け暮れる人、クラブに専念する人、続けて勉強を頑張る人、恋愛をする人など大学生活の過ごし方は人それぞれでしょう。私は親元を離れ、1人暮らしをすることには抵抗はありませんでしたが、やはりすべてを自分でやらなければならないので、親のありがたみがよくわかります。入学前、私は友達ができるのかという不安がありましたが、たくさんの素晴らしい友達に出会うことができ、遊び・クラブ・勉強・恋愛どれも程々に、毎日毎日楽しく過ごしています。獣医学科は1年生が32人で、他学部に比べ少ないせいもありとても仲がよく、休みの日に近くの川へ釣りに行ったり、サイクリングに行ったり



り、夜はみんなで御飯を作ったりしています。大学周辺は山に囲まれ、たくさんの自然が残っており、素晴らしい環境にあると思います。大学内もたくさんの植木が植えられ、天気がいい日は外の芝生で昼食をとったりもしています。また、獣医学科では「ポニ子」という名前のポニーを飼っていて、私達1年生が世話をしています。朝は早く起きるのが辛く、みんな「辛い。辛い。」と言っていますが、そこはさすが獣医師志望！！ですね。みんな責任を持ってきちんと世話をしています。勉強の方ですが、授業時間割りが今までとは違いすべて自分で決めることができ、自分の興味がある授業を受講できるので毎日の授業も楽しく受講しています。獣医学科の専門科目「獣医学概論」については、興味あることばかりで、先生方も気さくな方ばかりでとても楽しいです。入学して2か月ですが、「大学は行ける大学に行くのではなく、自分のやりたいことができる大学に行くのが一番だ」ということを本当に感じました。ところで、私が山口大学に入学してビックリしたことは何といってもキャンパス・学生数の規模です。前大学は単科大学であったためキャンパス・学生数の規模はとても小さく、総合大学である山口大学とは比べものになりません。キャンパスや学生数の規模が大きいと特定の友達としかつながりがないと思っていましたが、同じ学科内だけではなく他学部の友達を通して、友達の輪が拡がり、さまざまな人と出会うことができました。同じ1年生でも年齢に幅があり、出身もみんな違い、いろいろな事を知ることができるのも高校と大学との大きな違いではないでしょうか。この素晴らしい友達を大切に

して6年間の大学生活を充実したものにしていけたらなと思います。

「夢」に向かったの第一歩

今年、自分の志望通り獣医学科に入学しましたが、それは目標の一つ、通過点にすぎないでしょう。獣医学科に合格しても国家試験に合格して獣医師になれなければ何の意味もないのですから…。それに立派な獣医師になるためには、専門的な知識だけでなく、さまざまな知識が必要になり、同時に人間性も磨いていく必要があると思います。そのために、さまざまな事に挑戦して新たな自分を発見することも楽しそうですが、私はこの6年間の大学生活は、自分の趣味や興味・関心事に大切な時間を費やしたいと思います。私の趣味は全国の動物園・水族館を巡ることです。まだ近畿地方しか制覇できていませんが、この6年間で、できる限り多くの動物園・水族館を回ろうと考えています。私は動物園や水族館を訪れると、必ずその動物園や水族館の獣医師の方にお話を聞くことにしています。その理由は二つあります。一つは、将来私は動物園か水族館の専任獣医師になりたいので、少しはいい勉強になるのではと思っているからです。獣医師には飼主は勿論のこと、困難なことではありますが、動物とコミュニケーションをとる能力が要求されます。それは、動物に口はあっても、人間と話すことはできないからです。獣医師は動物と同じ立場に立ち、動物の気持ちを理解してあげる必要があるのです。動物の気持ちは机の上で教科書を読むだけでは理解することは絶対に不可能です。自分で足を運んで、自分の体で覚えていく

しかないと思うのです。二つ目は人との出会いを大切にしたいからです。人には個性というものがあり、みんなそれぞれが違った「自分」を持っています。私が近畿地方の動物園や水族館を訪れた時、それぞれの獣医師の方にいろいろとお話を伺いましたが、同じ獣医師でも人それぞれで、仕事に対する考え方、動物に対する考え方が異なっていました。この考え方が正しくて、あの考え方が間違っているということはないと思うのです。私は出会った方、一人ひとりの考え方を大切にし、それを参考にして自分の考え方や自分の生き方というものを確立させたいのです。それが素晴らしい獣医師になるための第一歩だと考えています。

最後に...

私は毎日楽しく大学生活を過ごしていますが、今後さまざまな困難に立ち向かうことになると思います。それが例えば、これから勉強していく専門科目であったり、6年後の国家試験であったり…しかし、たとえそれが苦痛であっても、自分で決めた道であるし、苦勞してつかんだ夢なんだということを忘れず、今後一切妥協することなく最後までやり遂げようと思います。一度は妥協した私が偉そうなことは言えませんが、みなさんにも決して自分の夢を諦めず最後までやり通して欲しいと思います。苦勞して何かを得たときほど、嬉しく、素晴らしく感じ、気持ちのいいことはないでしょう。目指すは、世界一の獣医師です。(笑)

学生生活を 通して

陣内 健昌
大学院農学研究科
生物資源科学専攻2年

勉学について

山口大学は、総合大学であるため、多くの分野の講義を受講することができます。それこそ経済から教育、化学、生物、物理、情報等々様々です。私は、高校時代は物理を勉強していたので物理の方面に進んでいこうかと思ったのですが、生物実験をきっかけに生物のおもしろさに触れ、その方面に進むことを決意しました。さまざまな分野の学問に触れることは、自分の可能性を引き出すためのチャンスなので、これは自分にとって大きなプラスになることは間違いないと思います。

部活・サークル活動について

大学での部活は、高校時の部活とは年齢層もシステムも違っていると思います。運動部、文化部共に実行部というのが存在し、自分たちで各部の管理を行うシステムになっています。また、先輩方との関係もより近くなり、もちろん先輩なのですが、友達といった感覚での付き合いが多くなっていくことと思います。

キャンパス内環境について

山口大学のキャンパスは、まず広いです。そして、周りは緑に囲まれて静かなところですよ。田舎だからと思われるでしょうが、都会に行くとも騒音があり、キャンパス

が狭いのが普通のように思われません。何かに集中したい時には最良の環境ではないかと思っています。

農学部ってこんな ところかな？

段村 浩一
農学部
生物資源科学科
生物生産科学講座
伊藤研究室4年

山口大学農学部に入學して早くも4年目です。これまで過ごしてきた中からいえる農学部について少し紹介しようと思います。

昨年度、農学部では改修工事が行われました。今、学部棟はとてもきれいです。全室エアコンも完備されており快適です。良い学習空間ができたのではないかと思います。そして、農学部棟についていえることにはこのようなこともあります。工事の前後を問わず、不夜城なのです。夜中も明かりが消えることはなく、どこかで誰かが実験しています。その光景を見ると思わず感嘆してしまいます。

農学部というところでどうしても『土くさい』といった印象が抜けません。こういっている私でさえそうでした。ですが、実際にやっていることは幅広いです。生産、環境、微生物などいろんなことをあつかっています。さらに、その中でも遺伝子をあつかったり、圃場で作業したりなどいろんな面からアプローチをし、環境や食料の問題に対して取り組んでいる学部です。

農学部には広い農場があります。実験に使われているところもありますが、各研究室で空いてい

る土地もあり、そこは主に畑としていろんな作物を育てたりしています。先輩らと仲良くなれば収穫した野菜などをわけてもらえるかも！？

最後に、今後食糧や環境の問題はさらに大きくとりあげられるようになることでしょう。その将来を担っているのは他でもなく農学部であるといっても過言ではないと思います。私たちや後輩たちが担っていくのです。そういうやりがいのあるところだと私は思います。

少しでも農学部に対して興味を持つことができたでしょうか？できたのならうれしい限りです。簡単ではありますがこれを紹介文とさせていただきます。

大学の面白い所

田中 有香
人文学部
人文社会学科1年

私のお気に入りの場所は経済学部棟横の木に囲まれた空間です。そこには山口大学の歴史があります。卒業生による記念樹が何本もあり、奥まったところに木でできたベンチが一つぽつんと置かれています。私は経済学部棟に週1時間だけ授業を受けに行きます。この場所は通り道です。ここを通る人自体あまり見かけませんが、ベンチに座る人は全く見たことがありません。蜘蛛の巣が張ってあったりもして少し寂れた風ではありますが、なんだか落ち着ける場所だといつも感じます。

山口大学には広い敷地の隅々まで木や花があります。受験に来た時も思ったのですが、勉強するためだけでなく1日の大半を過ごす

生活の場として本当によい環境です。

総合研究棟から榎野寮にかけての道も好きです。どのくらいの歴史を刻んでいるのか、大きな木々は日光を遮るほどです。大げさではなく、本当に草が絨毯のように敷き詰められています。私は自然が気持ちを新たにしてくれるような気がします。

大学の図書館はおもしろい!!

山野 飛鳥
人文学部
人文社会学科1年

山口大学でおもしろいところというと、図書館、だろうか？入るときに学生証を使って、まるで駅の改札みたいに入る、というところからおもしろい。ときどき学生証をバックから探すのにとまどって、入り口のところで立ち往生してしまったりするのだが。

図書館の中はとにかく広い。高校の時とは比べものになりません。置いてあるものだって図書や雑誌だけではなく、パソコンがあったり、自分のパソコンを持ってくればインターネットだってできます。読みたい本を探すときもとても簡単です。パソコンで蔵書検索をすればあっという間にデータが出ます。あとはそれを元に探すだけ。これだとすぐ見つかるし、本当に助かります。

でも私が図書館を好きな理由は、なんといっても本のにおいで。たくさん本に囲まれると香る、落ち着いたにおいが私は好きです。図書館に入ればどこでもにおいがします。書庫に入ればなおさらです。書庫の中は静かでひん

やりしていて少し寂しい感じがするけど、落ち着けます。あとは階段で気をつけていれば問題なし。そんな感じで、用事がないときはふらっと図書館に行きたくなります。あそこは本当におもしろいと思います。

学生が頑張っている大学

吉田 祥一朗
大学院人文科学研究科
地域文化専攻1年

私は、山口大学に来て5年目になります。今年、人文科学研究科に入学し、後2年間大学に在籍することになるのですが、山口大学のことを改めて考えてみると学生が中心となり頑張っている大学という印象が残ります。その例として、吉田寮が主催する七夕祭は、大学が主催する大学祭と比較できないくらい盛大な祭りで賑わいがあり、勢いがあると思います。そのような大学で学んでいるわけですが、学部の勉強は人文学部ということもあり、分野も現代のことから歴史のことまで幅広くあります。その中で、私は民俗学のゼミに入っているのですが、調査実習という授業はとても印象に残りました。調査実習とは、授業で調査する地域について調べ、夏休みに2泊3日ぐらいで調査する地域に行き、その地域の人に自分が調べたいことを聞いて、後期の授業で調査したことを整理し、文章化しまとめる授業です。何が楽しかったかというと全く知らない人と話す緊張感や充実感、また、先生と学生が一つ屋根の下で遊んだり、酒を飲んだり、勉強したりと滅多にできない経験だったと思います。

次にキャンパスの穴場を挙げるとしたら、第2学食での夕方のバイキングだと思います。卒論の時期は、友達と毎日のように行き、食堂のおばちゃんに覚えられないくらい常連になりました。このバイキングは、450円という安さで、おかずが4~5品・御飯・味噌汁・デザートの大判振る舞いで、現在もたまに行っています。普段あまり、栄養のあるものを食べていないので、助かっています。

夢をかなえるために...



授業開始前の楽しい一コマ
(前列中央が著者)

武田 恵美
工学部
知能情報システム工学科1年

わたしが山口大学に入学してからまだ3ヶ月も過ぎていませんが、山口大学に来てよかったなと思っています。楽しく毎日を過ごしています。

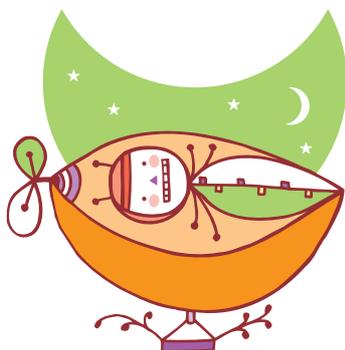
山口は田舎なのでショッピングなど思うようにできないけれど、自然がいたるところにあります。大学の近くには大きな川もあるし、空気も澄んでいるし、夜になると星がとてもきれいです。自然に囲まれているので心も落ち着くし、集中して勉学に励むことができます。友達との友情も深まります。

山口大学には人文学部・経済学部・教育学部・理学部・農学部・

工学部・医学部の七つの学部があります。工学部と医学部は2年生から学部に移ってしまいますが、1年の時は本学なので他学部にもたくさん友達ができます。自分とは違う趣味を持っていたり、違う専門の勉強をして、将来違った方向に進もうとする他学部友達を作ることは、いろんな考え方を取り入れられて、またお互いを高めあえるのですごくよいことです。

今日では大学を卒業していても就職できないといった人が増えていますが、山口大学ではこの国際社会には英語が必要不可欠だと目をつけTOEICをとりいれています。

わたしにとって山口大学とは夢を叶えるための通過点であると思っています。大学は高校までと違ってほとんど規制がありません。大学をうまく活用するかただなんとなく過ごすかは自分自身が決めることです。行動全てが誰の責任でもなくて自分の責任になります。そういう社会にできるための準備の場でもあり、また生涯の友を得られる場でもあると思っています。大学入試で学力云々はあるけれど大事なものは、大学入試よりも大学にはいったからの努力です。大学は自由なので頑張ろうと思えばどれだけでも頑張れます。わたしはここを踏み台にして夢を叶えたいと思います。



工学部における 平凡な毎日



Newcastle University (Australia)
学長来学時の一コマ (左端が著者)

仁木 京子
工学部
知能情報システム工学科
システム設計工学研究室
(宮本研) 4年

工学部は坂の上

工学部は丘の上にあります。多くの学生は、坂を上って大学に来る羽目になるのです。さらに授業が4階の教室だと大変です。『何故こんなに重力に逆らわなければならないのだろう』と毎日のように思うのですが、きっと『重力に負けないハングリー精神』や『重力をものともしないような技術の開発』といった教育的ねらいがあるのでしょう。まあ、坂の上だけあって景色は良いし、風は気持ち良いし、良い環境といえます。

工事多発!!

工学部はいつもどこか工事しています。『工事中につき…』で回り道するのもしばしば、そのため講義に遅れそうになるのもしばしばです。それだけ頻繁に工事が行われているためか、建物は新しく、設備も良いです。『さすが感性デザインなんていう学科があるだけのことはある!』というようなデザインの建物が増えつつあります。

個性豊かな...

ある人は言いました『大学の教授は個性的な人が多いね。』と。確かに大学教授ともなれば、小生意気な学生ではとても太刀打ち出来ないような手強い人物も多いです。そもそも、この原稿を書く羽目になったのも以下のようなやりとりがあったからです。

教授：「原稿を書かないかね？オーストラリアに留学しないかね？」

私：「いやです。そんな暇無いです。」

教授：「酒をあげるがどうかね？」

私：「(かなり心が傾きつつも)そんなんじゃ、釣られませんか。(次の日)研究室に行ったら私の机の上にロシアのウォッカが…。さすがに留学はしませんが、原稿は書くしかないようです。」

このように平凡に過ぎてゆく毎日ですが、大学の立地条件に、新施設建築の通行規制に、はたまた、人的要因にと日々鍛えられ、充実した日々を送っています。

平凡な毎日を好まない、海外にまで進出したいという方は、ぜひとも、知能情報の宮本先生に掛け合って、私の代わりに留学してください。また、海外には行かないけど、英語に興味のある方、宮本研究室は、海外からのお客様が多いので、ぜひとも一度来てみてください。

山口大学での思い



思い出の一コマ
(後列右から2人目が筆者)

泉元 昌彦

大学院理工学研究科

知能情報システム工学専攻

博士前期課程2年

私が山口大学に入学したのは、5年前のことです。学生生活も残りわずか、あっという間の学生生活だったような気がします。山口大学で、私はさまざまな人々との出会いのなかでさまざまな経験を積み、自分なりに成長できたと思います。やはり、人が成長する過程では、人との出会いが必要であり、多くの刺激を受けることが大事だと思います。私にとって山口大学とは、さまざまな人々との出会いを与えてくれた本当に良い場所だったと思います。

話は変わりますが、工学部の環境が非常に整ってきています。私をはじめとして工学部にきたときは、正直言ってすごしやすい環境であったとはいえませんでした。次々と新しい建物が建てられてきていたり、1年前に学食が新しくなったり、1か月前には、図書館が新しくきれいになりました。実際、私の場合は、これらの建物をあまり使う機会がなかったので非常に残念です。皆さんは、これらの建物を多く使ってください。

最後に大学生活を続けていると、講義が難しかったり、就職活動がうまくいかなかったりして目標を見失ってしまう時期があるか

もしれません。そういうときは、一人で悩んでいてはいけません。友達に悩みや愚痴を聞いてもらうのが一番だと思います。人に話すことによっていくらか悩みは解消されるはずです。だから、毎日学校へ行ってください。大学内には、同じ悩みを持った友達がいっぱいいるはずです。そして、大学生活を充実したものにして下さい。



TOPICS

第5回運営諮問会議

平成16年度からの法人化に向け、
中期目標・中期計画に理解が示される

重本 隆之 総務部企画室企画係長



第2期第5回山口大学運営諮問会議が6月3日、事務局特別小会議室において開催されました。

本会議では、資料として提出のあった山口大学中期目標・中期計画第3次原案を基に、これまで大学側でまとめてきた経緯について、小嶋副学長（目標評価部会長）から説明がありました。前回の会議では、主として教育、研究の項目の部分でしたが、今回示されたものは文部科学省に提出するための全体版であり、前回までの運営諮問会議委員からの意見や学内説明会などを通じての意見等を取り入れてまとめた旨の説明がありました。

各委員から「全体的に前回までのものと比べ独自性が薄まった感がある」、「特化すべきところを強調すべきではないか」、「評価を意識し過ぎた記載になってはいないか」などの意見がありました。運営諮問会議としては、大学の案の方向で進めていくことに理解が示されました。大学としては、今後学内での審議を踏まえ、文部科学省との対応に当たっていくこととなりました。

続いて、法人化後の山口大学の組織等について「国立大学法人山口大学（仮称）」の制度（中間まとめ）を基に審議が行われました。審議に先立ち、平野副学長（制度設計部会長）から、国立大学法人法案が示されたことに伴い前回の中間まとめか

ら変更となった点として、理事、監事の人数が確定したこと、役員会、経営協議会、教育研究評議会などの設置、また、職員の身分が非公務員型となることに伴う人事制度等の説明がありました。

委員から「人事制度において現在適用されている法令との関係」、「教員の処遇等の取り扱い」、「法人化後の運営組織」等について質問があり、これを中心に審議が行われました。

なお、次回の運営諮問会議は、平成15年11月25日(火)に開催が決められました。



記者会見風景：右から、松野議長、加藤学長

議事要旨は、本学のホームページで公開します。
アドレスは次のとおりです。

学術講演会

「長州五傑」顕彰碑除幕式と記念学術講演会

後藤 明利 総務部総務課広報・調査係長

“5月12日”今から140年前（1863年）のこの日、後に長州五傑と称される長州藩の若者5人がトーマス・グラバーの仲介により、マセソン商会所有の蒸気船で横浜港を出航、上海に向かい、上海で2隻の大型帆船に分乗して長い航海の後、9月下旬ロンドンに到着しました。

当時、日本国内は攘夷が開国かで大いに揺れていましたが、西洋の文化を取り入れなければ日本は世界に遅れをとることになるとの危機感を胸に、密航という死を賭しての留学でした。5人の若者とは、初代首相の伊藤博文、外相を務めた井上 馨、鉄道を設置した井上 勝、通貨制度を確立した遠藤謹助、工学の父と云われる山尾庸三です。

ロンドンに到着した彼らの目に映ったものは、何隻もの巨大な蒸気船、立ち並ぶ倉庫、汽車が走り、煙の立ち上る工場群など活気に満ち溢れた街の光景でした。

彼らはそれを見て大変なショックを受けたのでした。

彼らがロンドン大学で学び始めて3か月が過ぎた頃、ロンドンタイムスに薩英戦争の記事が掲載され、さらに長州への攻撃が予定されているとの記事を目にした伊藤博文と井上 馨は、これだけ文明の進んだヨーロッパ諸国と戦争をしてもどうして勝ち目はないとその無謀さに驚き、攘夷論を転換させるために急遽帰国し、開国に向けて奔走しました。残った3人はその後も懸命に勉学に励み、日本の近代化の礎を築く原動力となったのでした。彼らは英国への日本からの初めての留学生で、その後の日本の近代化に大きく貢献したことを讃え、英国外務省が「長州五傑」と名付けました。



5人のうち、山尾庸三は山口市秋穂二島の生まれで、現在も当地に生家が残っていることから、

西日本国際交流推進協会などのご尽力により、生家隣に顕彰碑が建立され、5月12日午前、庸三の孫、ひ孫さん方をはじめ、関係者およそ100名が出席して除幕式が行われました。

顕彰碑は、黒御影石製で高さ約2メートル、横約2.8メートル、厚さ約40センチで英国から長州五傑と讃えられた5人が英国到着時に撮った写真をレリーフにしてはめ込んだものです。

午後は、会場を山口大学学生会館に移して西日本国際交流推進協会主催、外務省、山口日英協会及び山口大学の共催による「長州五傑顕彰記念学術講演会」が開催されました。講演会に先立ち、先にTYSテレビ山口が「長州五傑」について放送したビデオ並びにロンドン大学から送られてきたロンドン大学構内に建立されている「長州五傑」顕彰碑除幕の様を撮影したビデオの上映を行いました。引き続き、講演会に移り、講師は、外務省欧州局西洋第二課長 南 博氏が「日本と英国の現状」、駐日英国臨時代理大使スチュアート・ジャック氏が「英国から見た日英交流140年」という演題で講演され、最後に加藤 紘 山口大学長が「日英学術交流の原点と未来像」と題して講演されました。

講演会では、平成の長州五傑構想も語られるなど、会場は、山尾家関係者や、西日本国際交流推進協会、山口日英協会、山口大学の学生・教職員で埋まり、盛会裡に終了しました。



TOPICS

留学生研修会

留学生センター主催「新留学生研修会」

今井 新悟 助教授 留学生センター



集合写真（前列左端が著者）

5月17日(土)・18日(日)、国立山口徳地少年自然の家において実施されました。学部学生、大学院生および研究生の対象者の約8割にあたる30名の参加がありました。また、ボランティアでお手伝いいただいた日本人学生7名、教職員7名が企画・運営に当たりました。

この研修会の目的は、留学生として所期の目的を達成するために、学業・生活に関する情報を提供することと、留学生・日本人ボランティア・教職員の交流を行い、親睦を深めることによって、留学生に、異国の地にあっても孤独ではなく、周囲の人からメンタルサポートが得られることを知ってもらうことです。山口大学ではキャンパスが分かれているため、同じ国から来ている人同士でも、互いに知らなかったという人もいました。異国の地において、同じ言葉話す人と会って話をするということは、精神衛生上も大切なことです。そういう場を提供できたこの研修会は、それだけでも有意義なものでした。

カウンセラーによるワークショップ

林典子カウンセラーによるワークショップでは、身体コミュニケーション、つまり、視線や対人距離について考えました。実際に体を動かして、どのような身体コミュニケーションが自分と相手にとって心地よいものなのかを体感しました。人間のコミュニケーションの7割は非言語的なもの

だと言われています。日々、異文化に直面している留学生にとって、非言語コミュニケーションを意識化する、よいきっかけになりました。



リサイクルについて

山口市役所環境保全課による、リサイクルについてのオリエンテーションを行いました。土曜日にもかかわらず、無償ボランティアとしてお越しいただき、ペットボトルや、トレイ、空き缶などの実物を使って、特にごみの分別についてご説明いただきました。ごみの分別は、面倒なものですが、きれいな山口を守っていくために、みなさんの協力が欠かせないことを認識できたと思います。



図書館ガイダンス

附属図書館、藤本房枝情報リテラシー係長による図書館の使い方についてのガイダンスがありました。休日であるにもかかわらず、留学生のためになればということで、お越しいただきました。参考文献の探し方や、図書館に設置されているコンピュータの使い方などについてご説明いただきました。中国語環境のコンピュータが図書館に設置されていることなど、あまり知られていない情報も教えていただきました。

キャンプファイヤー

チームごとに、歌や即興劇を披露し、互いの親睦を深めました。市川先生のマジックショーや、渡辺先生扮する、火の神は大好評でした。散会してもなかなかその場を去ろうとしない留学生たち。満点の星空の下、話が尽きることはなさそうでした。



日本語についてのガイダンス

留学生センターによる授業についてのオリエンテーションを行いました。留学生は、専門の授業もこなしながら、日本語の能力も高めなくてはなりません。限られた時間で、どのようにしてこれを実現していくかについて、留学生センターで提供している授業や、留学生相談サービスで対応していくことを確認しました。

生活上のアドバイス

留学生課からは、入国管理局への書類申請のこと、アルバイトのことなど、留学生にとってはステータスを維持するために不可欠な情報を伝えました。アルバイトのことなどを気軽に考えていた人もいたようでしたが、留学生に許可されるアルバイトの種類、時間などについては、厳格な決まりがあります。これを遵守しない場合、その本人のみならず、大学全体の留学生受け入れにも多大な影響を与えます。この点を十分に認識してくれたことと思います。

文化体験

七宝焼きに取り組みました。きれいに焼きあがったペンダントやタイピンはいいお土産になりました。今回の研修会のみならず、日本留学のいい記念にしてくれることでしょう。



TOPICS

地域探訪

平川歴史探訪

外山 英昭 教授 教育学部社会科教育教室



教育学部社会科教室では、5月17日（土）新入生セミナーの一環として平川の平清水八幡宮、平川の大杉、広沢寺などを訪ねました。

私は昨年度より、山口大学と平川地域の連携を深めるため、毎月公民館で開かれる「平川史談会」の例会に、折々に参加していました。5月の例会に出席し、次の土曜日の「平川歴史探訪」への協力をお願いしたところ、突然の申し出にもかかわらず、兼重元氏と土田謙道氏のお二人が快く引き受けて下さいました。

当日は、教室の教員3名と学生9名に、先述のお二人、平川史談会の別のメンバー、山口大学埋蔵文化財資料館の2名を含め計17名で、快晴の平川を自転車で巡りました。

以下学生の感想文を交え、当日の地域探訪の一端を報告します。

平清水八幡宮

平清水八幡宮の本殿は、室町時代初期のもので、神社建築としては県下最古といわれています。三間社流造の優雅な社殿は重要文化財にふさわしい。平清水八幡宮の「平清水」とは、神殿の右側



平清水八幡宮の本殿

にある小さな池（湧き水）が日照りでも豪雨でも水量が一定であったことに由来していると言われていています。神社の近くにある「のはなしょうぶ」の自生地はまだ数輪しか咲いていませんでしたが、6月中旬には数多く花を咲かせることでしょう。

・・・「まず、神社に行き、建物が室町時代に建てられたものと聞き驚きました。その時代は、カンナがなく鋏のようなもの（ちょうな）で削ったにもかかわらず、全然わからないくらいきれいだったことには本当に驚かされました。」「私は平川に住んでいるのですが、こんなに身近に神社やお寺があったとは知りませんでした。」



広沢寺

広沢寺は、平川中学校近くの泉香寺山のすそのにある文化財の豊富なお寺です。

本尊は薬師如来像。脇に増長天、持国天があります。多くの羅漢像（18体）も興味深い姿をしていました。

また、高麗版の大蔵経とその写本があり、大内氏と朝鮮の関係を物語る貴重な文化財を見せていただきました。仏殿の近くに古墳があり、石室がほぼ完全な形で残っていました。

・・・「広沢寺の薬師如来像は左手の掌に薬壺をのせていて、病難に苦しむ者を救うと言われていています。その像は今では箔が落ちて暗黒色を呈していましたが、平安時代後期に造られたらしいです。」

「今回は貴重な体験をさせていただきました。」

一番印象に残ったのは、朝鮮から贈られた経典（大蔵経）です。あと、古墳の中に入ったのは初めてだったので、良い経験になりました。」



広沢寺

産官学連携

産官学連携への初めの一步

小林 誠 教授 医学部医学科器官制御医科学講座 分子細胞生理学



「血管病予防機能性食品研究会」主要メンバーと山口県産業技術センター食品技術部スタッフとともに
(後列右から3人目が著者)

はじめに

現在、国策としても、また、社会的にも、大学の研究成果を社会に貢献する事を主な目的として、学外の地域産業を含めた産官学連携プロジェクトが推進されています。特に、最近では、バイオ領域が一つの柱となっています。一方、大学発ベンチャーの起業も推奨されていますが、残念なことに山口県では、大学発バイオベンチャーは未だ1社しか設立されていません。

最近、山口県唯一の大学発バイオベンチャー企業を中心にして、山口大学医学部の研究シーズをもとにした産官学連携プロジェクトを模索しつつあるので、紹介したいと思います。

血管病のメカニズムの解明

血管の収縮機構には、血圧の維持に必要な正常収縮と狭心症などの血管病の原因となる異常収縮があります。これまでは、メカニズムが良く知られている正常収縮を対象にして血管病治療薬が製造されてきましたので、正常収縮を抑制する作用があるため、副作用があり、また、その治療効果にも限界がありました。これまで、山口大学医学部では、精力的に血管病の分子メカニズムに関す

る研究を推進してきましたが、最近、SPCと呼ばれる脂質が、血管病の原因分子であることを発見しました。さらに、SPCがどのようにして血管の細胞に作用して血管の異常収縮を引き起こしているか、詳細なメカニズムを検討したところ、血管の細胞の中に存在する二つの酵素を活性化していることを見出しました。そこで、この血管異常収縮の細胞内シグナル伝達機構を阻害する物質を、多数の候補分子の中から抽出（スクリーニング）を行いました。その結果、魚油のエイコサペンタエン酸（EPA）が血管の正常収縮には影響せず異常収縮のみを選択的に阻害することを見出しました。

血管病を予防する機能性食品の開発を夢見て

山口県唯一の大学発バイオベンチャー企業である「有限会社バイオフェニックス」（宇部市）の吉田社長と山口県産業技術センター・食品技術部の柏木部長が中心となり、上記の山口大学医学部での研究技術を活用して、血管病を予防する機能性食品の開発を目指した「血管病予防機能性食品研究会」が設立され、先日、第1回目の会合が産業技術センターで開催されました。写真は、その時の会合の様子を示した写真と出席メンバーの集合写真です。研究会といっても、資金的なバックアップや会則などがあるわけでもありません。堅苦しいことを抜きにして、血管病の予防が可能な機能性食品の開発を目指している地域の有志が集まって勉強する会です。下記に、本研究会の主要メンバーを列記します。産官学の「産」としては、大学発バイオベンチャーであるバイオフェニックスに加えて、食品加工の高い技術を有している澤産業と山陽食品工業が参加し、「官」としては、山口県産業技術センターの食品技術部が参加し、「学」としては、食品の新規素材にお詳しい宇部工業高等専門学校物質工学科、および食品新規素材のスクリーニングを行う山口大学医学部が参加しているという構成です。

TOPICS



「血管病予防機能性食品研究会」の主要メンバー

有限会社バイオフェニックス

社長 吉田 勉

山口県産業技術センター

食品技術部 部長 柏木 享

宇部工業高等専門学校

物質工学科 教授 品川 恵美子

澤産業株式会社

代表取締役社長 澤野 悦雄

山陽食品工業株式会社

製造部 部長 田村 良和

山口大学医学部医学科

教授 小林 誠

講師 岸 博子

終わりに

初めの一步を歩み始めたわけですが、まだまだヨチヨチ歩きです。後ろを振り返る事無く、しっかりと前を見据えて、一歩ずつ進んでいこうと考えております。我々の産官学連携プロジェクトに興味のある企業の方はお声を掛けていただければ幸いです。

TEL : 0836-22-2208

E-mail : seikoba@yamaguchi-u.ac.jp



異文化交流講演会

インド東海岸のエビ養殖による環境変貌を知って

白井 安由美 教育学部 学校教育教員養成課程 社会科教育4年



5月16日（金）14時半より大学会館2階大会議室で行われたインド・アンドラ大学助教授ナゲシュワラ・ラオ・カカニ先生（現島根大学汽水域研究センター客員教授）の講演会に参加しました。カカニ先生はインド東海岸のクリシュナ・ゴダバリデルタの自然地理を研究されています。共同研究者でもある本学の貞方昇先生が説明役となつての発表でした。

先生に勧められての参加で、インドについての基本知識さえ乏しかった私には、話は何か縁遠く、実感がわきませんでした。先生の話が進み、インドと日本は、距離的に離れてはいるものの、実際には密接に結びついていることを知るにつれ、興味が沸き始めました。すなわち、先生の話は、おもに東海岸で盛んに行われている日本向けのエビ養殖により、インドの平野環境が大きく変貌しつつあるというものであったからです。現地のスライドを交えた説明によれば、東海岸有数の大平野であるゴダバリデルタは、ここ2、3千年という年代幅でみると、大量の土砂流出によってその面積を急速に拡大してきたようです。そのような現象は、当時のデカン高原での森林伐採や農地開発など人間活動が大きく影響していると思われるそうです。しかし、最近数十年の期間だけをとってみると事態は逆で、それまでのデルタの成長とは反対に、激しい海岸浸食や地盤沈下により、毎



クリシュナ・ゴダバリデルタ(NASA衛星写真)

年70ヘクタールもの土地が失われ続けているそうです。独立後の大型ダム建設や土砂採取も大いに関係しているらしいのですが、同時期に活発化したエビ養殖が、この現象に関係深いようです。エビ養殖のために、塩水を地下から大量に各地で汲み上げるため地盤沈下が生じ、水没地が広がっているのだそうです。

インドでは1991年に始まった経済自由化政策および外貨獲得のため、エビ養殖が盛んに奨励され、多くのデルタ住民が養殖事業に乗り出しました。地元の人々は、環境破壊という認識があっても、経済的な当面の利益を優先しがちであるようです。一旦、エビ養殖に使われた水田は塩性化が進み、稲作のための土地には戻すことができないとのことでした。インドではインド人の食生活のためにエビを養殖しているのではなく、日本を含む先進諸国の大量消費のために、広大な水田をエビ養殖地に変え、その結果、農業不適地を増加させるという結果を招いているのです。先生の発表を聞き、改めて自分をとりまく環境や自分たちの生活をどのように捉えたらよいのか、そして、今インドで進行しつつある環境悪化に対して、何ができるのだろうかと思ひ直すきっかけを得ることができました。

蛇足ですが、先生のスライドの中には仏教遺跡を撮影したものもありました。約二千年前のこの地の仏教にあつては、仏像を拜むのではなく、レンガを重ねて作った仏塔を拜んでいたそうです。先生の話の地が、仏教にも縁の深い地と知って、何故か親しみが増しました。



ゴダバリデルタエビ養殖場

TOPICS

コラム

山大が動き出す!!

坪郷 英彦 教授 人文学部 広報活動専門委員会委員



アンケート実施風景

山口大学のVIづくりに向けていよいよ動き出しました。今回のYUインフォメーションからコラムを頂き、進捗状況をお知らせします。

まず、VIづくりの活動を示すキャッチフレーズを「山大が動き出す」としました。この言葉を発しながら学内はもとより、地域や報道機関等への広報もおこないます。

具体的なイメージづくりに向けてアンケート作業に入りました。手始めに7月5日（土）開催の七夕祭で地域の人々、学生に対してアンケートを行いました。

山口大学の優れているところ、物足りないところ、期待するところなど簡単な設問と山口大学の今を表わすイメージ言葉と将来期待するイメージ言葉に○をつける簡単なものです。

多くの来校者方々の協力のおかげで、ほぼ1000件に達する回答を得ました。今後は同じアンケートを教職員の方々にも実施します。ご協力をお願いします。

大まかな予定としては7月末までにアンケートをまとめ、8月末までにVIの基本となる言葉

(これを山口大学の約束の言葉とします)を決め、以後具体的な形・色彩を絞り込んでいきます。(VI策定検討部会)



アンケート用紙

私の授業

国際理解教育について



石井 由理 助教授
教育学部国際理解教育教室

1997年に山口大学教育学部に来て以来、教員養成課程の国際理解教育コースで異文化理解や国際理解教育に関連した科目を担当しています。

そもそも国際理解教育とは、理論体系をもった学問として成立しているものではなく、第二次世界大戦後にユネスコを中心に進められてきた平和の維持・実現のための教育で、その目的のための教育であれば、かなりの広い分野を含んでしまいます。さまざまな学問分野の共通テーマと考えるべきでしょう。よって、教育学部の教員養成課程で扱う国際理解教育はそのうちのほんの一部であり、私の担当する部分はさらにその一部ということになります。

ユネスコの国際理解教育は、知識のみを身につけるものではなく、態度や技能も含めた3本柱で進めていくものだと考えられています。このため、国際理解教育コースのカリキュラムもこの3本柱を意識しています。私の授業は態度に重点を置いた構成になっていますが、それは、他の授業や海外研修で外国語によるコミュニケーション技術を磨いたり、他の文化に関する知識を身につけたりする機会が用意されているためです。

授業での工夫

授業は、様々な民族や文化を見る相対的な視点を養うことと、私たちの身の回りに起きている日常のできごとが実は地球上の他の地域や人々に影

響を与えているという、グローバルな視点を身につけることを目的に据えています。知識や技術を教える場合と異なり、態度を育てる授業というのは、学習している学生自身が、「学んだ」という充実感を持ちにくいようです。そのため、適度に知識と技術も散りばめるようにしています。

視点や態度を身につけてもらうために、まず学生自身が気がついていない、無意識に思い込んでいることを、顕在化して自覚してもらう工夫をします。参加型の授業です。いかに何の疑問もなく自分の国を中心に考えているかを自覚してもらうために、世界地図を各自に描かせることもありますし、海外に流れている日本のイメージを見たり聞いたりして、それが受け入れられるか、おかしいと思うとすれば理由はなぜか、などをまず自分たちで考えてもらうこともあります。そのうえで、日本で紹介されている他の国や民族のイメージを「疑いをもって」見たり聞いたりしていこうというわけです。授業で全ての文化の全ての側面を扱うことはできませんから、授業で扱うこと自体も「大学の授業に適しているとして選ばれたもの」という疑いをもって捉える視点をもってもらいたいと思っています。

課題の中で学生が見つげてくるいろいろな事例や資料に、私自身が自分の態度や視点を改めて再確認をすることも多く、教える側にとっても得るところの多い授業を楽しんでいます。

TEL : 083-933-5423
(E-mail) yuri@yamaguchi-u.ac.jp



私の研究

宗教的文学の研究 —フランスと日本と—



井上 三朗 教授
人文学部

はじめに

フランスの17世紀の思想家パスカルは、「人はひとりで死ぬ」と言っています。孤独の中で生まれ、孤独のうちに死ぬ人間は、実存の過程で、宗教的な信仰をもつことが往々にしてあります。これまで私は、大きくいえば、人がなぜ宗教に救いを求めるのか、人が信仰を希求するとは、いったい何なのか、という問題意識をいただきながら、文学研究にたずさわってまいりました。したがって、私は宗教的な文学を研究対象にしています。私の研究は三つに大別されます。以下において、その三つの研究の内容と今後の課題を順次述べさせていただきます。

ジュリアン・グリーンの研究

私は長らく、20世紀フランスのカトリックの作家、ジュリアン・グリーンの研究に従事してまいりました。グリーンは純粋志向の持ち主で、この純粋志向が彼の文学にも宗教にも、大きな影響をおよぼしております。最近、私は『ジュリアン・グリーン研究序説』（人文書院、2002年）という本を出版し、この本のなかで、『幻を追う人』と『モイラ』を取り上げ、この二つの小説に表現された幻想性と宿命性とを、純粋志向とのかかわりで分析し、あわせて、グリーンにおける宗教性を問題にいたしました。これまで私は、グリーンに関する論文を三十数篇発表いたしました。しかし代表的な小説を研究しただけであり、本格的な研究への第一歩を踏み出したにすぎません。日記・自伝の研究をとおして、敬虔な信仰を有し

ながらも、同性愛の性向のために苦渋に満ちた生を歩まなければならなかったグリーンの評伝を作成することを、当面の課題にいたしております。将来的には、純粋志向を精算した、晩年の彼の三部作の長編小説を論じたいと願っております。

フランスの、その他の宗教的作家の研究

私はフランス文学専攻ですので、ジュリアン・グリーンだけでなく、他のカトリック作家の研究もおこなってまいりました。今までに、フランソワ・モーリアック、レオン・プロワに関する論考を執筆いたしました。宗教的作家に範囲をひろげれば、『狭き門』をとおしてアンドレ・ジードを、『星の王子さま』をとおしてサン＝テグジュペリをも論じました。これらの作家たちとともに、バルベール・ドールヴィイ、ユイスマンス、バルナノスらを研究することで、19世紀以後のフランス・カトリック文学あるいは宗教文学の歩みをたどりたいたいと思っております。

また、現在、私はサドの文学を勉強いたしております。サドは反キリスト教作家と規定できるのですが、キリスト教を徹底的に否認・敵視したこの作家を研究することで、逆に、西欧人にとって、キリスト教が何であるのかが見えてくるような気がいたします。宗教とのかかわりで、サド研究を継続したいと思っております。

日本の宗教的作家の研究

私はしばらく前から、日本の宗教的文学にも興味をもち、若干の研究成果をあげることができました。すなわち、カトリック信者となった高橋たか子の小説『空の果てまで』『誘惑者』を比較文学の立場から論じました。また、出家得度の前夜に書かれた『抱擁』という作品をとおして、瀬戸内晴美に関する論文を現在作成中です。これらの作家に加えて、カトリック作家の遠藤周作、晩年にキリスト教徒となった福永武彦の研究も、少しずつですが進めております。将来的には、浄土真宗の信仰をもつ丹羽文雄の文学の研究にもたずさわりたいと思っております。日本の宗教的作家の研究をおこなうことで、日本と西欧における宗教的人間の精神構造ないしエタ・ダーム（心的状態）を比較し、そして両者の類似性と差異とを浮き彫りにすることができればと願っております。

TEL : 083-933-5261
(E-mail) s.inoue@yamaguchi-u.ac.jp

教官著作書の紹介



武藤孝典編著 『人格・価値教育の新しい発展：日本・アメリカ・イギリス』

(学文社)

本書で取り上げているのは、スクール・ガイダンスや道徳教育における新しい思想的潮流と教育実践についてです。これらの点について、日本とアメリカ、イギリスにおける動向を比較検討するスタイルになっています。このうち私が執筆したのは、第2章第3節「正義と配慮にもとづく道徳教育の発展」という部分です。アメリカにおけるコールバーグ派の教育実践についてまとめました。

なんとも堅苦しいタイトルですが、この正義と配慮という2つの価値指向は、学校教育の現場でも重要な役割を担うと考えられます。学校内の暴力や不平等という問題を解決するために、教師は「正義」という価値を一定程度掲げる必要があります。しかし、それだけでは自己危害やコミュニティ環境への損害という問題を抑制できません。そのとき、教師は「配慮」という価値に依拠しなければなりません。このように問題状況に応じて、2つの価値指向をうまく使い分けることが、現代の道徳教育の鍵となっています。



高橋征仁 助教授 人文学部 人文社会学科 社会情報学講座
TEL:083 933 5243 E-mail: takahasi@yamaguchi.u.ac.jp



『日米韓台半導体産業比較』

(白桃書房2002年)

19世紀から20世紀中頃までは工業製品の大量製造、大量輸送の時代であるとともに、軍備拡張競争の時代であった。この時代、「鉄は国家なり」とか「鉄は産業の米」とかいわれた。20世紀後半から現代にかけては、「IC（半導体集積回路）が産業の米」といわれるようになった。半導体製品とその組合せによるシステムは、製造業だけでなく、物流、金融、小売業に不可欠のものとなっており、いわゆる情報革命の駆動力となっている。

本書は二大半導体大国である日米の半導体産業の特色を実証分析的に論じるとともに、近年力をつけてきた韓国と台湾の半導体産業の歴史と戦略を分析したものである。

その他、1980年代から1990年代にかけて日本鉄鋼大手5社の半導体産業参入と撤退のケーススタディに一章を割くとともに、日本における半導体ファブレス（製造手段を自前で持たない）、ベンチャー企業の一例を、その創業者のキャリアと戦略を中心に分析している。



谷光太郎 教授 経済学部 経済学科
TEL:083 933 5532 E-mail: taro@poc.yamaguchi.u.ac.jp



『地域生態系への回帰 - 急傾斜地に樹林を復元する新しい理念と戦略 - 』

(文一総合出版、2003年3月31日)

本書は、地山や丘陵地に道路や住宅用地などの土地造成を行うことによって生じた造成法面の急傾斜地を対象として、地域や土壌の生態系復元に視点を置き、樹林化を達成しようとするときの問題点や改善法についての基本的考え方や技術を紹介したものである。さらに、平成3年（1991）より建設が開始された、広島県山県郡加計町の「温井ダム」ダムサイトの急傾斜岩盤を緑化・樹林化するために、建設省（現在の国土交通省）温井ダム工事事務所と山口大学、広島大学の共同研究チームが取り組み、実施した岩盤緑化工のコンセプトと研究成果をまとめて加えている。

日本における土壌生態系と地域生態系の改善及び復元に配慮した急傾斜法面や岩盤緑化における新しい考え方と、技術の先例になることを願っている。



丸本卓哉 教授 農学部 環境生化学
TEL:083 935 5039 E-mail: marutaku@yamaguchi.u.ac.jp

新聞掲載された山大・地域から見た山大

5月

- ◆ **強い会社になる** アルモウルド
金型技術を医療機器に山口大などと組み研究
(日経：2日)
- ◆ **この30年以内に起きる確率の高い南海地震<下>**
山口大学 教授 山本 哲朗氏
災害弱者の対策を (防長新聞：3日)
- ◆ **心に響く曲の数々披露**
山大管弦楽団の合同演奏会 (宇部：6日)
- ◆ **論 点** 災害弱者を守る地震対策
山口大学教授 山本哲朗氏
(読売：7日)
- ◆ **炭都のシンボル** 旧興産本社をVRで再現
山口大工学部清水教授ら 市の委託でソフト開発
(宇部：8日)
- ◆ **寄 稿** 山口大工学部教授・山本 哲朗
災害弱者守る地震対策を
(山口：9日)
- ◆ 「通学、買い物便利に」
山大留学生に自転車25台 県国際交流協会が贈る
(山口：10日)
- ◆ 山口大マンドリンクラブ
17日に「スプリングコンサート」
(サンデー山口：10日)
- ◆ **工学部の山本教授が「昭和21年南海地震アンケート」報告書**
体験者のコメントも 「地震への認識深めて」
(ウベニチ：9日、宇部・中国：10日、山口：11日、読売：13日)
- ◆ 46年の南海地震 報告より大きな被害
再発生へ対策必要 山大教授が県東部調査
(朝日・山口・中国、宇部・防長：10日、毎日：11日、読売：13日)
- ◆ **人** 山口大地域共同研究開発センター
5代目センター長 清水則一さん
一番の悩みは元気の源の「学生と過ごす時間」
が減ったこと
(宇部：14日)
- ◆ **宇部興産学術振興財団** 研究費を援助
山大の浜野教授ら4人に400万円を
(宇部：14日、中国：16日)
- ◆ **教育基本法改正案どう考える**
—あす山口でフォーラム—

- 個人と公の均衡必要
河村健夫 文部科学副大臣
公共性自発的なもの
外山 英昭 山口大教育学部教授
(中国：16日)
- ◆ **現場・家庭一致する施策を
教育改革フォーラム**
基本法改正に賛成 パネル討議 父親の育児
など持論
(中国・日経・毎日・山口・西日本・読売・朝日・防長：18日)
- ◆ 山大人文学部異文化交流
16日「春の講演会」
(サンデー山口：14日)
- ◆ **現場・家庭一致する施策を
教育改革フォーラム**
基本法改正賛成に賛成 父親の育児など持論
(パネル討議)
(中国・日経・毎日・山口・西日本・読売・朝日・防長：18日)
- ◆ 山口大学・サブナノデバイス集積化物理研究室
世界初のナノテクノロジー・オン・パネルの
開発推進
山口大学 工学部 松尾直人 助教授
(週刊ナノテクワールド：19日)
- ◆ 宇部でベンチャー促進「産学公連携研究」
国の改革特区認定 (朝日：21日)
- ◆ **あす山大工学部で未来科学講演会**
(山口：28日)
- ◆ 山大も広域避難場所に
山口市が防災・水防計画 (山口：28日)
- ◆ 宇部市の構造改革特区認定
産学公で研究開発促進 一県内4件目—
(毎日：28日)
- ◆ 高校 ↔ 大学 連携教育
“出前講義” 県内で急増 (読売：25日)

6月

- ◆ **山口大 中期計画最終案**
独法化へ特色盛る
地域連携 住民と「やまぐち学」
学生教育 選択科目で学際学習
学部再編 獣医・教育機能残す

新聞掲載された山大・地域から見た山大

- (中国・山口・毎日・朝日・読売：4日、
防長：5日、中国：18日)
- ◆ 山口大学・サブナノデバイス集積化物理研究室
世界初のナノテクノロジー・オン・パネル開
発推進
山口大学工学部 松尾直人 助教授
(半導体産業新聞：4日)
- ◆ AO方式入試 山口大が募集要項
(読売：6日)
- ◆ 山口県が連携サポート事業
幼稚園・保育園・小学校
適応力養う幼児教育重視 (中国：6日)
- ◆ 砂防公園を見てみよう
ー防府市阿弥陀寺境内ー
山口大工学部教授 山本 哲朗氏
(宇部時報：6日)
- ◆ 生ごみなど有機性廃棄物エネルギーや資源に
再生
ー国の委託受けー
宇部高専中心の産学官研究グループ
技術開発、実証試験へ (読売：7日)
- ◆ 鹿大など11校を選定
文科省地域貢献特別支援事業
学官連携で地域課題克服 (西日本：7日)
- ◆ 国の地域貢献事業補助金制度
山大が選ばれる
(山口・朝日・毎日・読売・日経：7日)
- ◆ 山大理学部 サマースクール
(サンデー山口：13日)
- ◆ 桜酵母使った純米酒
県産技センター 山大、永山本家酒場が共同で
商品化
(朝日：11日)
- ◆ 大学生が英語で討論
姫山杯争奪コンテスト 7校から13チーム参
加
(読売：15日)
- ◆ 公認会計士・税理士 山口大が資格取得コース
(読売：14日)
- ◆ 「科学する心」育てたい
教材のロボット開発
山口大の江教授「試行錯誤で楽しく」
(朝日：15日)
- ◆ 砂防公園を身近に ～下関市下方川の場合～
山口大学工学部 教授 山本 哲朗氏
(ウベニチ：14日)
- ◆ 国立大法人化後の運営方針正式決定
ー山口大ー
- ◆ 地域貢献へ 独立法人化控え 山口大本腰
企業の人材育成
エネルギー開発 (中国：21日)
- ◆ 人材養成など10事業
山大が地域貢献特別支援事業 (防長：22日)
- ◆ 意識高め組織づくりを
山口大の山本教授 竜王しらさぎ大学で講義
100人が災害対処法学ぶ (宇部：24日)
- ◆ 国内最先端の放射線医療が可能
ー山大附属病院ー
高エネルギー棟が完成 (宇部：25日)
- ◆ 山大演劇部 27・28日に公演
(サンデー山口：25日)
- ◆ 日環特殊 自治体向け下水処理設備
山口大と開発
低価格で環境配慮型 (日経：26日)
- ◆ 学生の直言 即先生へ
ー山大医学部LAN集計ー
授業ごとにその場で採点 教え方の欠点解消
(朝日：27日)
- ◆ 5年後のIT教室参加者募集
(サンデー山口：26日)
- ◆ がん患部を狙い撃ち
最新鋭の放射線治療実現
ー宇部の山大附属病院ー
(山口・読売・毎日・中国：26日、
西日本：27日)
- ◆ 宇部と小野田結び63年
厚東川大橋旧橋 解体始まる
山大の研究にも活用 (西日本：30日)
- ◆ 21世紀の情報社会を支える二次電池
モバイルエレクトロニクスの発達で
生産・需要が伸びる高性能小型電池
山口大学工学部応用化学工学科
森田 昌行教授に聞く (読売：30日)

公開講座のお知らせ

講座名	開設期間	受講対象者	開催会場	問合せ先
理科実験講座	8月7日(木) ～ 8月8日(金)	小学校教諭 中学校教諭	山口大学 教育学部 講義室	山口大学総務部企画室 TEL 083-933-5006 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間 / 7月1日～7月25日)
木工入門	8月29日(金) ～ 8月31日(日)	市民一般	山口大学 教育学部 木工加工 実験室	山口大学総務部企画室 TEL 083-933-5006 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間 / 7月1日～8月22日)
ヒューマンスクール ～表現すること～	10月1日(水) ～ 12月10日(水) [隔週水曜日開講]	市民一般	山口大学 教育学部 講義室	山口大学総務部企画室 TEL 083-933-5006 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間 / 9月1日～9月25日)
女性のための講義と実習 による健康教育講座: (基礎編)	10月6日(月) ～ 11月22日(土)	宇部近郊に 在住する中・ 高年女性	宇部市 武道館	山口大学医学部庶務係 TEL 0836-22-2007 住所 宇部市南小串1丁目1-1 (募集期間 / 未定)
日本文化コース 「歌と言葉」	10月4日(土) ～ 12月13日(土) [毎週土曜日開講]	市民一般 学 生	山口大学 人文学部 講義室	山口大学総務部企画室 TEL 083-933-5006 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間 / 4月上旬～10月2日)
外国語学習コース (フランス語) 「ペローの童話を フランス語で読む」	10月4日(土) ～ 11月29日(土) [毎週土曜日開講]	市民一般 学 生	山口大学 人文学部 講義室	山口大学総務部企画室 TEL 083-933-5006 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間 / 4月上旬～10月2日)
現代文化コース 「美的に生きる」	10月4日(土) ～ 12月13日(土) [毎週土曜日開講]	市民一般 学 生	山口大学 人文学部 講義室	山口大学総務部企画室 TEL 083-933-5006 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間 / 4月上旬～10月2日)
身近な化学とバイオを 体験しよう	10月を予定	高校生 市民一般 高等学校教諭	未 定	山口大学工学部総務係 TEL 0836-85-9003 住所 宇部市常盤台2丁目16-1 (募集期間 / 未定)
ジェンダーから見た 東アジア・日本社会	11月7日(金) ～ 12月12日(金) [毎週金曜日開講]	市民一般	山口大学 経済学部 講義室	山口大学総務部企画室 TEL 083-933-5006 住所 山口市大字吉田1677-1 (募集期間 / 10月1日～10月31日)



